

テーマ

地域連携による新たな事業展開

地域の実情を知り尽くしたプロ集団による防犯灯のLED化

弘前地区電気工事業協同組合

日本一の「弘前城さくらまつり」を支える電気と光のプロ集団による弘前市内約1万8千基の防犯灯のLED化。津軽の地吹雪にも耐える「弘前仕様」の防犯灯を開発し、明るさと経済性を両立させた。

背景と目的

当組合の活動の中心である弘前市では、効率的なエネルギー利用を目指す「弘前型スマートシティ構想」を検討していた。当構想の「省エネルギー」への取り組みの一つに、市内に約1万8千基設置されている防犯灯をLED化するESCO (Energy Service Company) 事業が盛り込まれていた。ESCO事業を行うに当たり、平成25年に当組合を含む3事業者による提案が行われた。提案

書には、ESCO事業への当組合の適合性、組合組織の強み、独自アイデア等を描き切り、提出した。しかし、提案書という「紙」だけでは理解が得られないため、理事長が率先して関係各所に説明を行った。理事長による熱心な説明と、提案内容の理解が徐々に広がり、弘前市からESCO事業者として選定された。

事業・活動の内容

雪国でLED仕様の街路灯を仕様する場合、積雪によるセンサーの誤作動が問題となる。そこで当組合では、津軽の雪に耐えるオリジナルの「弘前仕様」の街路灯を開発し、工事に備えた。平成25年9月に市と契約を締結したが、冬までに工事を終わらせる必要があった。残された期間は約3ヶ月という超短期間であった為、夜間にも工事を行うなどの対応をし

た。当組合は、日本一と称される「弘前城桜祭り」のライトアップを約50年に亘り担当してきた。約600基にも及ぶ照明器具を50人体制で設置し、24時間体制で国内外から訪れる観光客の感動を演出してきた。地域に根差し、地域を愛するプロ集団ならではのチームワーク、技術とノウハウ、津軽人の心意気が、今回のESCO事業にも遺憾なく発揮された。

成果・効果

地元で実施されるESCO事業によるLED街路灯の設置、10年間の保守・管理、省エネルギー効果の測定まで受託するという当初の目標は達成された。また、組合員が自身の事業所エリアにおける保守・管理を担当することから、これまで以上に地域住民とのつながりを実感している。ESCO事業は、10年間の仕事創出という経

済的メリットとともに、個々の組合員が地域に密着した活動を行うことによる責任感と誇り、組合への参加意義を醸成することにも繋がっている。市民からは、「夜道が明るくなった」等の声が届き、LED化の効果が市全域で発揮されることとなった。さらに、防犯灯の維持・管理を担ってきた各町会の経済的・労働的な負担が軽減し、弘前市全体では年間約3千万円の電気料金の圧縮が可能となるなど、関係者から大いに感謝されている。

弘前地区電気工事業協同組合

住所：〒036-8061
青森県弘前市大字神田4-6-3
設立：昭和40年8月
出資金：39,460千円
電話：0172-37-1011
URL：http://hirosakidenkyo.webfc2.com
業種：電気工事業
組合員：73人
組合専従者：10人